



伊勢参宮名所圖會

五下



巡嶋勝覽

附遺記
神宮雜記



嶼島巡覽

山水の癖と病
いんままん 津風
俵勢崎 松を足
おるくくやえよう
うらな者 見んわと
舞うげん ひま
そはる又三佐の
三つ かんえん
こ泳せ 方をの
又うあれかる
とてゆくはけきつ
の 梅にそつ
炭岩のけらるを
かりしてん
まらした



とてくをきかりり
うこそ世の人心ふ
たの 徳島の薬
らうた 時茶の葉の根の
得やそれをつら
泳がった唐云の石玉
とのあいのえたよの
ユメ 木 等
うらざらんや



鳥羽浦

志六の四子所津乃其隨... 鳥羽浦... 志陽略誌曰傳曰志州鳥羽乃縣... 鳥羽城... 阿兒浦... 俗又和具... 万葉集... 幸伊勢國時留京柿中人麻呂作歌

阿兒浦

俗又和具 万葉集 幸伊勢國時留京柿中人麻呂作歌

鳥羽城

志陽略誌曰傳曰志州鳥羽乃縣... 鳥羽城... 阿兒浦... 俗又和具... 万葉集... 幸伊勢國時留京柿中人麻呂作歌

佛巖

波間出沒一奇石誰借天工彫佛軀... 隨喜群鷗馴碧海巘頭追伴似歡嬉

附録

祭祀の事

○新衣糸 九月十日 延嘉式云和妙衣廿四疋... 野若糸 頸玉 手玉 足玉の緒... 長刀一 杖 短刀子 錐 針 鉾 鐙 箸 絲 玉串 二枚 韓櫃 針 各一枚 韓櫃一合

○月次祭 六月 内宮より赤引糸... 麻大十二斤 酒本十石末二石三

権かり 礼世の比其式も廢とく 三守城申る但馬守の表遠一々其を比及び
ちりり古田家より評をその日の港に載せ

御師も御流刀師の習之師の師連師の師たり 詔刀の宣言たり或は孫宣言

守武神主佛諸の事

大永天文のころ内宮藤田長官荒田田武神主なり其比まを佛諸式とてその
と下のを二人して附合連致といひの教ぬ定るゆもなり此長官揚吟の
白く始りて其式佛の宗祇一書通あり一は此ゆを定下より定め給へとの
さる一とく其後貞徳も再興してその規矩とて世人修
勢佛諸とてその被るを権與とてせ給ふ守武連致の教にて致道とて
世も流布せる世中百首の教致信流鄙語といふ毎る世中の字を將
と百神といふ事なりとや守流浦田の某世も遊せしとて此百首を
書寫せり今遠く其比が延宝八年八月廿八日巻之内原長次七十二歳と記
せり此法守保年中挿絵といふ画本といふなり又室曆年中守流浦田の
被重麻を建てる不承めくこの祠友を其良法とて發記して實に守流の
此る成好めりとの守武の末葉の人建るなり其記とて

阿漕浦の再考

修勢両宮の祭れぬ干鯛を以河蟹とて其を河幣鯛といふは鯛

くも云何とく尾張國智多郡篠原の津より一たふを其と津佐とく
其餘の正貞の書三條の御日宿館とく殊味とて其魚と採り付長官より幕二
張を以て叙めたり一日ぬえとてとく或人の云姓古の是を阿漕浦とて
りのかり鯛は八十八夜の比ぬくの海に流あがるを九州とてさる鯛といふ
されとも海中番く浮抱ぬいあり此國中一二を不に混りて集る両宮とて海も
多しといふともはるが浦を以て鯛の會とて和とて其教を修くは此に依據
を採りてさる小室に漁捕する者もありて度うさるればありこれ罷せらるゆも
其さるいもあまのゆとては又入り此を以て二非ぬ

あまのゆを以てたがうりひく鯛のさびとてたがうぬべし

あられ適當の注とるを

修勢とて國界の事
天平開元元年修勢津老の津の國とて其奥長抄川多國を以て又十津とて二説あり
鈴のこを以て又十津とて又津田の修勢又修勢田とて其風より波のいせは
さるたと何とて日せかりのをさるは又津田修勢といふ風も其の説あり

鯛のゆ

此魚は世魚といひは後いよ用ゆるは是のたさるるふ海にて其名は西心是小なる時
はたさるるはとてはしり大なるはとては此ゆらた名いんも解か
一説は鯛一名名をたして古くは字音名右のゆ也古佐日記なり一の記をそのゆ

國史旧記より久しき西宮のみ今の拜殿百二十社に保善中河守多石川大瀧
東武一詣へ給ひ造営ありしより後補官宮の例とて西宮より新造
うね社社の拜殿をなれども社号社名のまじりたるも固より造拜殿
拜殿を設けど石槨の古法に内宮別宮の造拜殿は皆石槨あり外宮
濱宮小戸門社下河守の石流ありと云ふ拜殿は皆中右より造りしに
てついでとて外宮の宮地は山と云ふ石槨ありありて俗に四社と稱し中
も大なる良然の南に石社と号し雨抄のいを構へし本なり是より良後
進む
童女を祀ふに石槨を造りて例に依りて掃拂ひをなすは諸人紙を衣
敷の形に造りて石社と號し石槨と号するは此外の石社も固より石槨の
例に依りて造りしに

世俗若し石槨を信じて造りしに現に見たり此入丸の社
も大なる除けの離宮の旧跡は藤の巫稚を祀るおとれた茂如と云ふ
康春寺の佛の果の怪むとて愚匠の業師を祀りて祀りて遊遊
庭に造りしに怪むとて或日丸の社神靈ありと云ふ社号と改り宮地を
下し造りしに宮地の社号ありと云ふ既別宮と稱し社の叙ありと云ふ
二十二社の叙は存勢と号し一宮社混りて古記は宮社の分明あり
ざるもまじりしとて常勲社主の白宮の御屋の社は屋代あり是より
云い庭もあらず又宮の宮殿ありて皇居に至るの居不社の神明の御舎

たり今有栖川の宮伏見の宮と稱する數ありしに社は神明に限るは未
官社の混りしに古記の社号ありと云ふと云ふ社は社は社は社は社は社
或記に社をコソと訓するは古今不解被再考し辨せり社の訓はさて
靈の尊き物又宗と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
夜燈の事

西宮の社若し灯明なり夜の御祭は燈臺十二基を設けてありと云ふと云ふ
淵と云ふ内宮にも社若し燈臺ありと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
みくそ古記あり

一説云外宮の宮地は常夜燈九基又百基斗皆寸又度をおく石朝の敷を
圓いとしとて檜とて造り彩色饒るの古法あり内宮の敷度御堂と
あり一常夜燈の敷を造りしに或いは古法ありと云ふと云ふと云ふと云ふ
さるに古法ありと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
修其西宮日多と號し市中の助力を乞ふ外宮宮地六基の常夜燈
六基を造りしと始りて地圖よりも壽洲あり其六基の宮地の古く修補
して今も存あり

園地あり
此地えり岩淵河の西宮中西某が筑ありしと中右常明寺と號し其寺の形
又建るに其昔のつらつら社殿ありしや云ふに社殿の南邊は社殿三ツあり

しるやりの書物にも紙ものなり
こゝちを記すはあやひききこむ入

寛政九年の
閏七月

たのみの海驢織

名所記総目録

浪華心齋橋通
唐物町書林

河内屋太助梓行

平安秋里離島輯

五畿内名所圖會 全部三冊

都名所圖會 全部六冊

大和名所圖會 全部七冊

和泉名所圖會 全部四冊

東海道名所圖會

全部六冊

本曾路名所圖會

全部七冊

伊勢路名所圖會

全部六冊

各國神社傳記の傳記山川谷國境
村里名賢英哲の経路を詳記し名所を
撰記をいり悉く今の風俗とそのまじり
寫し間かな文章をくく其監觸と撰
實小全條大成の去以下名所圖會準之

都拾遺名所圖會 全部五冊

河内名所圖會 全部六冊

撰津名所圖會 全部三冊

仁もも別あり
上仕と本道府の
重余所好く通
仕の法用は作付
てしるを希上

北陸東奥勝地真景

北四輩順拜國會

全部十册

山城近江越前加賀越中越後信濃
上野等八箇國 前篇五册
武藏下総常陸陸奥出羽 下野相模
甲斐駿河遠江参河尾張美濃後篇
附録 伊勢大和河内攝津備後五册

山陰道名所國會

全部七册 近刻

南海道名所國會

全部世册

紀伊國名所國會 全部五册

淡路 阿波 讃岐

同後集續編 嗣出

伊豫 土佐 續刻

文中題詩諸名家寄合書

唐土名勝國會

直隸省部 全部六册

此書ハ唐土名勝國會ノ一統ノ全圖を述べたき直隸省部
師大内皇族内侍等ノ御用ニ及ぶる事あり
全圖をたきて唐土名勝國會ノ一統ノ全圖を述べたき直隸省部
師大内皇族内侍等ノ御用ニ及ぶる事あり
唐土名勝國會ノ一統ノ全圖を述べたき直隸省部
師大内皇族内侍等ノ御用ニ及ぶる事あり

唐土訓蒙國會

平住専安先生選 後素軒橋本圖 全部十五册

山城名勝志

全部二十二册 保十二枚箱入

山州名勝志

全部二十二册

帝都種菜覽

文鳳山人書 全部二册

系の系

全部二册 二面

都細見之圖

懐中折本一册

都名所之圖

懐中小本一册

花洛細見圖

折本十五册 備後外社社院圖

出来世系之圖

全部七册

京師紀覽

全部拾五册

都系時記

全部七册

此書ハ山城國中社院佛圖の修築する事松蔭の書
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書及びその詳
記(香米とあり)助(とあり)女(とあり)
此書ハ山城國中社院佛圖の修築する事松蔭の書
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書及びその詳
記(香米とあり)助(とあり)女(とあり)
此書ハ山城國中社院佛圖の修築する事松蔭の書
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書及びその詳
記(香米とあり)助(とあり)女(とあり)

日本風土記

全部 八冊

都れなるの巻

後存 二冊

増補
新板

大日本國花萬葉記

全部 七冊
箱入 近刻

難波九綱目

全部 七冊

攝州名跡志

全部 七冊

泉州志

全部 六冊

長崎記行

水戸志の先生
及び記名百法全一
を志す

東國名勝志

全部 五冊

東れ記行

全部 五冊

西國船政記

西國船政記
西國船政記
西國船政記
西國船政記

任吉名勝圖會

全部 五冊

勝地山水奇観

前後各四冊

攝津名所圖會

全部 十冊

難波おの巻

後存 五冊

寛政九年丁巳五月

京都書林

大坂書林

菱屋孫兵衛

吉文字屋市左衛門

柏原屋與左衛門

河内屋太助

塩屋平助

勝尾屋六兵衛

塩屋忠兵衛

